

躍進目覚ましい中国のフィンテックサービス⑤

国際社会経済研究所(NECグループ)主任研究員

大平 公一郎



中国ではフィンテックをインターネット金融と呼び、既に多くの人々が生活の中で身近なサービスとして利用し始めている。その主なサービス分野は日本や欧米のフィンテックと同じく決済、資産管理、融資などである。

モバイル利用
中国のインターネット銀行が50%と既に

が利用範囲を広げながら普及し、特にスマートフォンを使って第三者決済サービスで預かったお金を実店舗の支払いに使うモバイル決済が伸びている。QRコードの利用が一般的で、①消費者のスマートフォンから見て数トフオンでQRコードを表示し店側が読み取る。融資や株・投資ファンド取引の利用は10%程度とやや低いが、ユーザ数から見て数千万人が利用経験を持つこととなり、その規模は圧倒的である。

半数以上に至っている。融資や株・投資ファンド取引の利用は10%程度とやや低いが、ユーザ数から見て数千万人が利用経験を持つこととなり、その規模は圧倒的である。

決済の分野では、スマートフォンカメラで読み取る、のいずれかによって消費者の口座から店の口座へと支払

QRコード決済幅広く



が行われる。

キャッシュレス

対応する店舗は、大型のショッピングセンターやスーパーから、小規模な店舗や露店、さらには三輪タクシー

など幅広く、現地ではスマートフォンがあれば財布を持たなくても生活ができる、との声も聞かれた。QRコードを印刷した紙一枚があればカードリーダーなど特別なハードウェア

中国では、多くの人が入れたお金は、決済だけでなく資産運用サービスとして利用し始めている

アがなくても決済が可能となるため、店舗側の導入へのハードルは相当に低いという。このQRコードを利用した決済サービスは、中国を一気にキャッシュレス社会へと変貌させている。

預金から投資へ

代表的な第三者決済サービスはイーコマース最大手アリババの提携、銀行預金を中心とするアリペイや、SNS最大手テンセントのウィーチャットペイであるが、この口座に